

ミズキ



花なし情報！

新緑の中、冬の枯れ木のような樹が目立ち、明るくなっている場所があります。5月の連休の頃、キアシドクガが大発生して幼虫のケムシがミズキとクマノミズキを食いつくし、樹は丸坊主、葉柄だけになってしまいました。生存競争に負けた毛虫が多数道路に落ちていました。“ドクガ”と名前がついていますが、毒はありません。5月20日頃、羽化した白い蝶のような成虫が昼にひらひら飛び交う様子は美しいものでした。相模原市立博物館のブログによれば、夏までには再び葉をつけるそうですが、実がないので、秋、鳥の食べ物に影響しそうです。

6月に見られる花

6月は、木々のみどりが深い色になってきます。ミズキの花より1か月遅く咲き出すクマノミズキが花盛りになるはずでした。ハエドクソウ・キヌタソウと小さな花が咲き始めます。キヌタソウが群生して咲くさまは、あまりの美しさにぞくぞくします。

アカショウマ



ユキノシタ科チダケサシ属

“ショウマ”と名のつく植物は複数の科にまたがっています。キンポウゲ科のサラシナショウマ、アジサイ科のキレンゲショウマ、バラ科のヤマブキショウマなど。分類上は関係がなく、共通するのは、枝が分岐して小葉が多数つく点です。チダケサシ属には“チダケサシ”という種もあり、チダケ（食用キノコ的一种）を採集した時、この草の茎にさして持ち帰ったことに由来します。属名のラテン名“アスチルベ”は園芸品種の名称になっているので、こちらの名前の方がなじみ深いですね。

